

第5章 計画の目標・目標を達成するための実施事業

1 計画の目標・目標指標（KPI）・事業内容

- 本計画の取組みを推進するうえで達成すべき目標を以下のように定めるとともに、具体的な目標値の達成を目指す指標として掲げます。

目標1：誰もが利用しやすい地域間幹線交通の確保・維持

- 市外への移動需要に対応するため、広域幹線交通の確保・維持や市内公共交通との乗継強化、県・他市町・交通事業者との連携強化を行い、持続可能な広域幹線交通ネットワークの活性化を目指します。

目標指標（KPI）

■目標値① -水俣市を運行する地域間幹線交通の利用者増加

- 市内には鉄道や路線バス等の水俣市と周辺地域を結ぶ重要な地域間幹線交通が運行しており、市民の市外への通勤通学や買い物等での移動をサポートしています。また、市外からの来訪者にとっても重要な移動手段となります。
- 地域間幹線交通の確保・維持に向けて、運転免許を所有していない学生や高齢者等を対象に利用促進に取組みながら、地域間幹線交通の利用者増加を目指します。

指標	単位	現状値（R6）		目標値（R11）
肥薩おれんじ鉄道の 市内3駅の年間駅利用者数	万人/年	16.6	➡	現状値以上※1
路線バス（産交バス）の 市内区間の年間乗降者数	万人/年	2	➡	現状値以上※1

※1：熊本県地域公共交通計画にて、持続可能な公共交通ネットワークの構築を達成するための指標として、路線バスの年間輸送人員は令和元年の数値（コロナ禍前）を目標値としているが、肥薩おれんじ鉄道の駅利用者数と路線バス（市内区間）の利用者数はコロナ禍前の数値に回復しつつあるため、本計画での目標値は現状値以上として設定

事業1：広域幹線交通の利用促進

- 取組み①：鉄道利用者の回復に向けた利用促進
- 取組み②：肥薩おれんじ鉄道と協力した誘客事業

事業2：地域間幹線交通（路線バス）の確保・維持

- 取組み①：沿線市町と連携した地域間幹線交通の利用促進

〈目標値の考え方・算定方法・評価時期について〉

目標値① - 水俣市を運行する地域間幹線交通の利用者増加

〈目標値の考え方〉

- 「熊本県地域公共交通計画」では、人口減少が進む中であっても、持続可能な幹線公共交通ネットワークを構築するために、現状（令和元年度）の水準を維持することを目標にしているため、本計画も現状（令和6年度）の数値を目標値に設定します。

〈目標値の算定方法〉

- 利用実績を確認

〈目標値の評価時期〉

- 毎年度評価

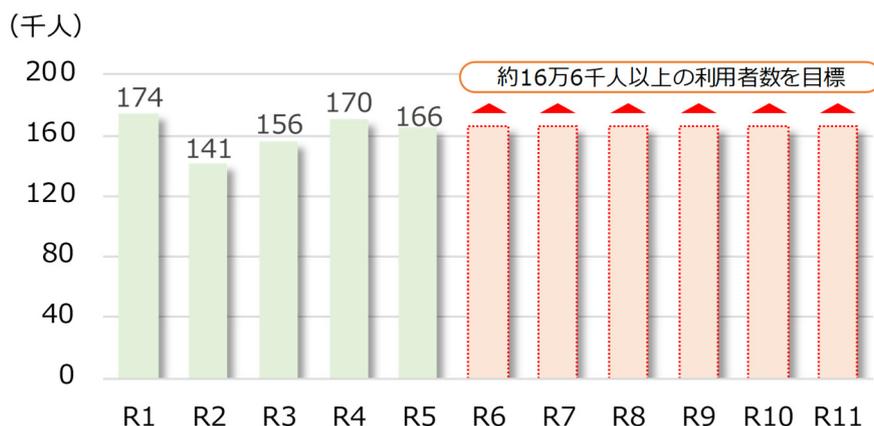


図 駅利用者数（新水俣駅・水俣駅・袋駅）

出典：肥薩おれんじ鉄道(株)

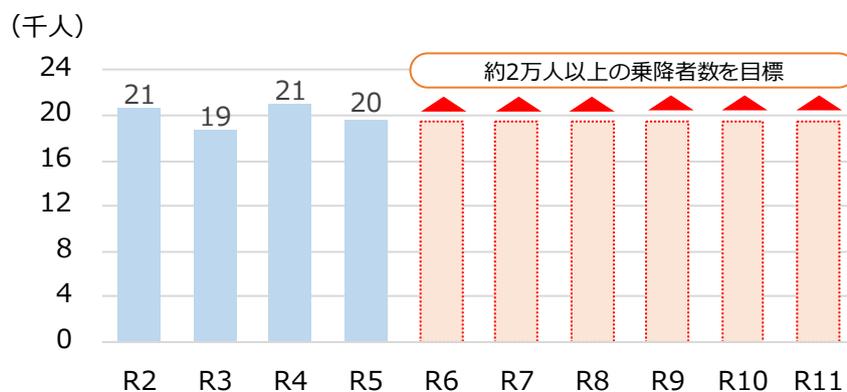


図 市内区間のバス乗降者数（路線バス）

出典：産交バス(株)

〈事業内容及びスケジュール・実施主体〉

事業1 広域幹線交通の利用促進

事業の課題	○コロナ禍の影響により、市内3駅の利用者は令和元年と比べて令和2年は3万人以上の減少がみられます。 ○市民の市外への移動に利用される鉄道の確保・維持が重要です。
取組みの方向性	○広域的な移動を支える広域幹線交通（九州新幹線・肥薩おれんじ鉄道）は市民及び来訪者にとって重要な移動手段となっています。特に肥薩おれんじ鉄道はコロナ禍前の数値に回復しつつあるものの、今後も広域幹線交通としてサービスを確保・維持するために、利用者の増加につながる利用促進の取組みを進めます。

取組み内容

取組み①：鉄道利用者の回復に向けた利用促進

- 市内の主要な広域幹線交通である肥薩おれんじ鉄道の利用回復を図るため、水俣ローズフェスタ等の市内の主要なイベント等での鉄道利用の積極的な周知や時刻表の配布等の利用者増加に向けた利用促進に取組みます。



図 時刻表（肥薩おれんじ鉄道）
出典：肥薩おれんじ鉄道(株)

取組み②：肥薩おれんじ鉄道と協力の誘客事業

- コロナウイルスの影響により肥薩おれんじ鉄道の利用者が減少したため、肥薩おれんじ鉄道の利用者の回復に向けて、利用者増加のための誘客事業に取組みます。
- 誘客事業は、肥薩おれんじ鉄道と水俣市が連携を図り、鉄道を利用して市内の主要な観光地である湯の児温泉や湯の鶴温泉等に訪れていただけるような誘客事業を検討していきます。



図 道内あちこち列車でぴよーん
（鉄道網を活用した利用促進企画）
出典：北海道鉄道活性化協議会

取組み内容	実施主体	事業スケジュール				
		R7	R8	R9	R10	R11
①鉄道利用者の回復に向けた利用促進	水俣市 鉄道事業者	検討・実施				
②肥薩おれんじ鉄道と協力の誘客事業	水俣市 鉄道事業者	企画検討		実施		

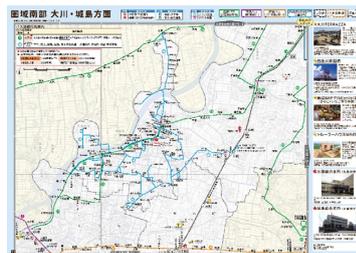
事業2 地域間幹線交通（路線バス）の確保・維持

事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○市外への移動手段の確保が重要です。 ○免許返納した高齢者の移動手段の確保が重要です。
取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○地域間移動の役割を担う路線バスは市民の買い物や通院などの移動手段であり、提供サービスを維持するには、交通事業者や沿線自治体が連携・協力しながら利用促進事業を展開します。

取組み内容

取組み①：沿線市町と連携した地域間幹線交通の利用促進

- 水俣市内を運行する路線バスは水俣市と芦北町を結ぶ路線バス（産交バス）と水俣市と阿久根市を結ぶ路線バス（南国交通）が存在します。
- それぞれの路線バスは水俣市と周辺市町を經由しているため、路線バスの確保・維持に向けて、周辺市町と連携し、各市町の住民に対して、利用を促す取組みを進めます。



▲ 複数市町村における公共交通マップの作成事例

取組み内容	実施主体	事業スケジュール				
		R7	R8	R9	R10	R11
①沿線市町と連携した地域間幹線交通の利用促進	水俣市 バス事業者 沿線市町 (水俣市以外)	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 20px; background-color: #e0e0e0; position: relative;"> ➔ </div> 検討・実施				

目標2：市民ニーズに対応した地域公共交通の効率化

- 交通事業者と協議を諮りながら地域内公共交通の効率化を図り、市民ニーズに対応した持続可能な地域内公共交通サービスの提供を目指します。

目標指標（KPI）

■目標値② -みなくるバスの年間利用者数の増加

- H15より路線バスがみなくるバスに移行され、市民の移動を支える公共交通になっていますが、年間減少割合-3.0%以下に抑制した令和6年度の数値目標値の9万人以上を達成することができませんでした。
- 今後は、市民への利用促進や鉄道との接続向上などの地域内公共交通の利用者増加につながる取組みを実施し、財政負担を抑制しながら市民が満足する「みなくるバス」の確保・維持を目指します。

指標	単位	現状値（R6）		目標値（R11）
みなくるバス年間利用者数	万人/年	8.1	➡	現状値以上※1
みなくるバスの収支率	%	12.0	➡	現状値以上※1
みなくるバス運賃無償化事業の継続 (無償化：満75歳以上、重度障がい者)	-	実施中	➡	実施中

※1：コロナ禍の影響により、R4まで減少傾向となっていたが、コロナウイルスが第5類感染症に移行したR5からは増加傾向であり、持続可能な地域内公共交通の確保・維持に向けて利用者数及び収支率を現状値以上とする目標値を設定

事業3：みなくるバスの維持・効率化

- 取組み①：利用実態に応じた運行内容の効率化
- 取組み②：みなくるバスの利用者増加に向けた利用促進

目標指標（KPI）

■目標値③ -乗合タクシーの運行効率化

- 乗合タクシーはみなくるバスが運行していない交通空白地の解消のために導入され、地域の住民の移動を支える役割があるものの、利用が低迷している路線が多くあります。
- 地域の移動手段として乗合タクシーを確保するため、オンデマンドなどの新技術を活用し、利便性の向上による利用者の増加を図ります。また、単なる経費削減にとどまらず、利用の少ない停留所の見直しなどの効率化を進め、乗合タクシーの持続可能な運行を目指します。

指標	単位	現状値（R6）		目標値（R11）
乗合タクシーの利用低迷路線 (便平均利用者数2.0人未満)の解消数	路線	8	➡	0路線※1
乗合タクシー利用者 1人あたりの財政負担額	円/人	3,262	➡	現状値以下※2

※1：現在全路線で便平均利用者数が2.0人未満であるため、乗合タクシーとして運行を継続していくために、2.0人未満の路線を全て解消することを目標値として設定

※2：乗合タクシーの確保・維持の観点から、現状値以下にすることを目標値として設定
財政負担額の計算にあたっては、燃料費の高騰などの特殊な事情を考慮して評価

事業4：乗合タクシーの運行効率化・更なる利便性向上

- 取組み①：乗合タクシーの確保・維持に向けた運行内容の見直し
- 取組み②：オンデマンド運行の導入

目標値② -みなくるバスの年間利用者数の増加

〈目標値の考え方：みなくるバス年間利用者数〉

- みなくるバスの年間利用者数はコロナ禍で利用者の落ち込みがみられたものの、コロナウイルスが第5類感染症に移行した令和5年からは増加に転じているものの、まだまだ回復しきれていません。今後のみなくるバスの確保・維持に向けて、利用促進の取組み、現状値より利用者を増加させる目標値を設定します。

〈目標値の算定方法及び評価時期〉

- 利用実績を確認
- 計画最終年度評価

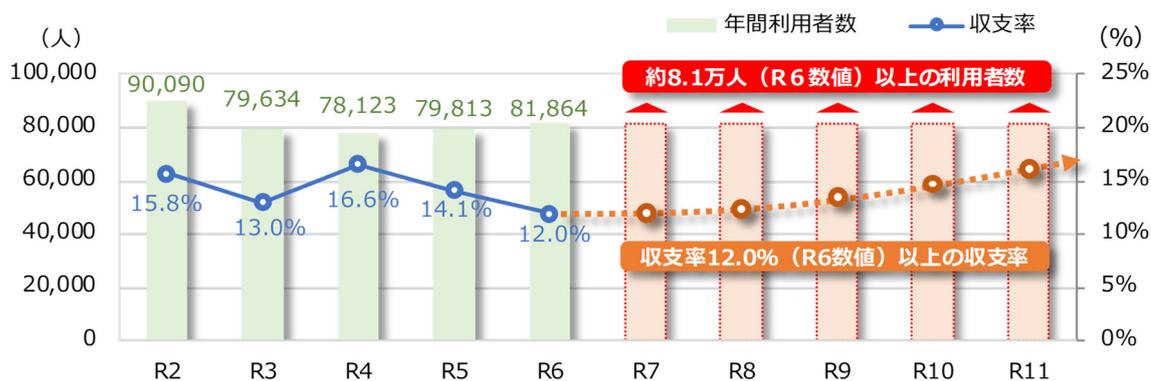


図 みなくるバスの利用者数及び収支率の推移

目標値③ -乗合タクシーの運行効率化

〈目標値の考え方：乗合タクシーの運行効率化〉

- 乗合タクシーの運行を継続していくために、全便で便平均利用者数を複数人（2.0人以上）が乗車し、運行コストの効率化を目指します。

〈目標値の算定方法及び評価時期〉

- 利用実績を確認
- 計画最終年度評価

表 乗合タクシーの便平均利用者数

路線名	運行曜日	便平均利用者数
猿郷線	月～金	1.6人
大迫・牧ノ内線 (デマンド)	月	1.2人
市木線	火	0.6人
寺床・寒川線	火	1.1人
小津奈木線 (デマンド)	水	1.5人
鬼岳線	水	0.3人
坂口・八ノ窪線 (デマンド)	金	1.0人
神川・湯堂線 (デマンド)	金	1.8人

目標：2人以上

〈事業内容及びスケジュール・実施主体〉

事業3 みなくるバスの維持・効率化

事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○みなくるバスの利用者の減少及び1人当たりの財政負担額が増加しています。 ○更なる利用者増加を図るために、みなくるバスの利用促進が必要です。 ○運転手の負担軽減に向けて、利用低迷区間の効率化が必要です。
取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○市民ニーズに対応した運行サービスを提供するために、利用低迷区間の見直しやルート変更等の運行効率を図り、みなくるバスを確保・維持する取組みを進めます。

取組み内容

取組み①：利用実態に応じた運行内容の効率化

- バス事業者へのヒアリングから運行距離が長い路線では運転手の負担が大きいたことが確認されています。
- みなくるバスのサービスの維持に向けて、利用実態に応じた路線縮小やルート変更等を水俣市とバス事業者が協議し、効率的に運行する取組みを進めます。



図 路線図

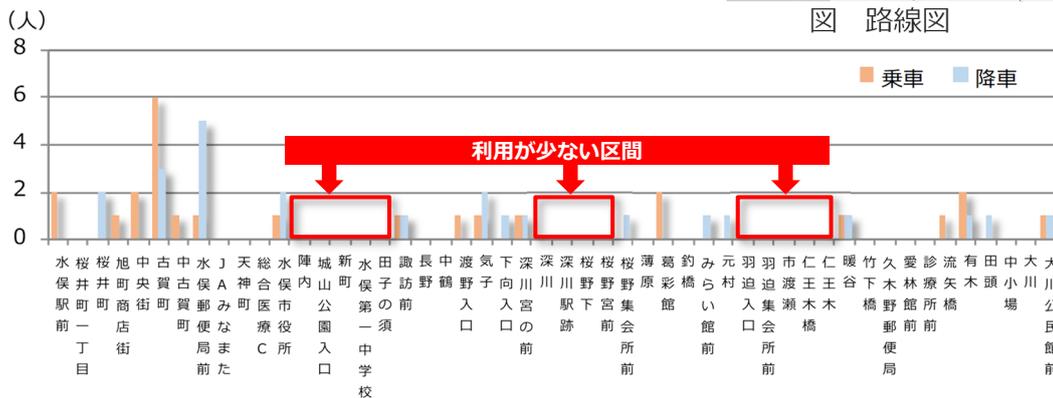


図 乗降者数 (大川線)

出典: R6 みなくるバス乗降調査

取組み②：みなくるバスの利用者増加に向けた利用促進

- みなくるバスの確保・維持に向けて、利用者を増加させるために、積極的にみなくるバスの周知等の利用促進に努めます。
- 利用促進については、交通事業者と連携し、みなくるバスの周知活動や時刻表の配布等の利用者増加につながる取組みを検討し、実施します。



図 時刻表 (みなくるバス)

取組み内容	実施主体	事業スケジュール				
		R7	R8	R9	R10	R11
①利用実態に応じた運行内容の効率化	水俣市 バス事業者	調査	検討	実施		
②みなくるバスの利用者増加に向けた利用促進	水俣市 バス事業者	検討・実施				

〈事業内容及びスケジュール・実施主体〉

事業4 乗合タクシーの運行効率化・更なる利便性向上

事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○乗合タクシー利用の全ての便で年間便平均利用者が2人以下となっています。 ○乗合タクシーの運行エリアである葛渡小学校区でのオンデマンド交通の要望が多くあがっています。
取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○みなくるバスが運行していないエリアの補完交通として運行している乗合タクシーは、R3より利用低迷路線に対して予約型のデマンド運行に転換し運行効率化を図ってきました。しかし、現在は全路線の利用者が2人以下と利用者が少ない状況であるため、今後も確保・維持に向けて、より効率的な運行内容の見直しに取組みます。

取組み内容

取組み①：乗合タクシーの確保・維持に向けた運行内容の見直し

- 令和6年の乗合タクシーの年間便平均利用者は全ての便で2人を下回っており、乗合が成立していません。利用低迷路線のデマンド化（予約型定時定路線）により、運行経費の抑制はできていますが、さらなるデマンド化を推進するなど、タクシー事業者と連携して取組みます。

表 乗合タクシー便平均利用者数（R6）

路線名	運行曜日	便平均利用者数
猿郷線	月～金	1.6人
大迫・牧ノ内線（デマンド）	月	1.2人
市木線	火	0.6人
寺床・寒川線	火	1.1人
小津奈木線（デマンド）	水	1.5人
鬼岳線	水	0.3人
坂口・八ノ窪線（デマンド）	金	1.0人
神川・湯堂線（デマンド）	金	1.8人

取組み②：オンデマンド運行の導入

- 現在、乗合タクシーの運行形態は定時定路線型運行と予約型定時定路線の2種類の運行形態で運行しています。今後、更なる高齢化により、自宅から乗り場までの移動が困難と感じる方の増加が予想されるため、乗合タクシーの利便性向上を図るために自宅から目的施設までの結ぶオンデマンド交通を導入します。
- 導入に関しては、主体であるタクシー事業者やオンデマンド導入エリアの住民と協議しながら進めていきます。



図 水俣市予約型乗合タクシーの実証運行

取組み内容	実施主体	事業スケジュール				
		R7	R8	R9	R10	R11
①乗合タクシーの確保・維持に向けた運行内容の見直し	水俣市 タクシー事業者	検討	実施			
②オンデマンド運行の導入	水俣市 タクシー事業者	実施				

目標3：交通拠点の整備・機能強化

- 市民や来訪者らが市内を運行する公共交通を有効に活用できるように、市内主要な交通拠点の整備及び機能強化を図り、公共交通の利便性向上を目指します。

目標指標（KPI）

▶ 目標値④ -来訪者の公共交通の利用割合

○H31に水俣ICが開通され、水俣市へのアクセスが向上したため、来訪者の多くは自家用車を利用し、公共交通の利用は非常に少ない状況です。

○今後は市民だけでなく来訪者にとっても利用しやすい公共交通の見直しや公共交通を利用するきっかけとなるような情報案内を行い、来訪者の公共交通の利用割合の向上を目指します。

指標	単位	現状値（R6）		目標値（R11）
来訪者の公共交通の利用割合	%	13.3	➡	14.8以上 ※1

※1:R1のアンケート調査にて、来訪者の公共交通の利用割合は14.8%であったが、R6では13.3%に減少しています。本計画にて来訪者等の移動に関する取組みを実施し、来訪者の公共交通の利用割合をコロナ禍前のR1の数値まで回復させることを目標として設定。

事業5：交通拠点での乗り継ぎ強化

- 取組み①：水俣市役所への路線バスのバス停の移設検討
- 取組み②：水俣駅での二次交通の充実
- 取組み③：肥薩おれんじ鉄道とみなくるバスの接続強化

事業6：市民及び来訪者にとって分かりやすい情報発信

- 取組み①：水俣MaaS（ミナマース）事業の取組み推進
- 取組み②：交通拠点での公共交通の情報発信

目標値④ -来訪者の公共交通の利用割合

〈目標値の考え方〉

- 前計画の目標値である14.8%を令和6年は達成できていません。駅利用者の利便性向上に関する取組みを本計画で進めていき、駅利用者がさらに利用しやすい環境を整備し、前計画の14.8%を達成することを目標とします。

〈目標値の算定方法及び評価時期〉

- 評価年次にアンケートを実施
- 計画最終年度評価

指標	令和元年度	⇒	目標値	実績値
			令和6年度	令和6年度
来訪者の公共交通の利用割合	14.8%		14.8%以上	13.3%

〈事業内容及びスケジュール・実施主体〉

事業5 交通拠点での乗り継ぎ強化

<p>事業の課題</p>	<p>○鉄道とバスが接続している新水俣駅、水俣駅では鉄道と20分以内に接続できるバスの便が少ないため、利用しづらい状況となっています。 ○水俣市役所は路線バスとみなくるバスのバス停が離れているため、乗り継ぎしにくい状況となっています。</p>
<p>取組みの方向性</p>	<p>○市内を運行する公共交通のリソースを有効活用し、市民や来訪者が既存公共交通を自由に組み合わせることができるように水俣市が中心となり、各交通事業者同士の連携強化を図り、各公共交通の接続を向上させる取組みを進めます。</p>

取組み内容

取組み①：水俣市役所への路線バスのバス停の移設検討

- 水俣市役所は敷地内にみなくるバスの乗り場が設置されており、みなくるバスの全路線が経由しているため、みなくるバスの乗継拠点としての機能を有しています。
- 水俣市役所の更なる乗継機能の向上（ハブ化）させるために、路線バスのバス停を市役所敷地内に移設するなどバス事業者と慎重に協議を行い、接続強化につながる取組みを検討します。



図 バス停位置図



図 バス停：水俣市役所 (みなくるバス)



図 バス停：市役所前 (路線バス)

取組み②：水俣駅での二次交通の充実

- 水俣市を訪れる観光客の多くは自家用車で移動しており、公共交通の利用は少ない状況です。さらに、本市の玄関口の一つである水俣駅では二次交通が十分に整備されていないため、水俣駅から観光地等への移動がしづらい状況となっています。
- 水俣駅を利用する鉄道利用者の利便性向上を目的に、関係機関と連携し「カーシェアサービス」の導入を含めた二次交通の充実に取組みます。

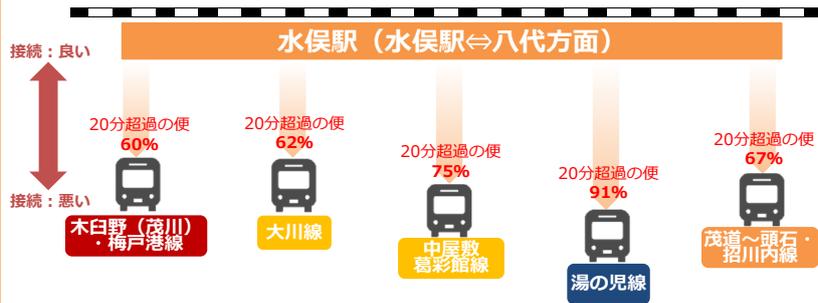


図 TOYOTA SHARE (新水俣駅)

取組み③：肥薩おれんじ鉄道とみなくるバスの接続強化

- みなくるバスにて肥薩おれんじ鉄道と20分以内に接続している便の割合は「木白野（茂川）・梅戸港線（40%）」が最も多く、「湯の児線（9%）」が最も少ないため、みなくるバスと鉄道の接続は良いとは言えません。
- 公共交通の利便性向上のため、みなくるバスのダイヤを見直すなど、鉄道と路線バスの接続向上に向けた取組みを進めます。

木白野（茂川）・梅戸港線 20分以内の乗継便数 往路：1/3便（33%） 復路：1/2便（50%） 全体：2/5便（40%）	大川線 20分以内の乗継便数 往路：2/4便（50%） 復路：1/4便（25%） 全体：3/8便（38%）
中屋敷・葛彩館線 20分以内の乗継便数 往路：2/7便（29%） 復路：1/5便（20%） 全体：3/12便（25%）	湯の児線 20分以内の乗継便数 往路：0/6便（0%） 復路：1/5便（20%） 全体：1/11便（9%）
	茂道～頭石・招川内線 20分以内の乗継便数 往路：2/6便（33%） 復路：2/6便（33%） 全体：4/12便（33%）



取組み内容	実施主体	事業スケジュール				
		R7	R8	R9	R10	R11
①水俣市役所への路線バスのバス停の移設検討	水俣市 バス事業者		協議・実施			
②水俣駅での二次交通の充実	水俣市 鉄道事業者 カーシェア事業者		協議・実施			
③肥薩おれんじ鉄道とみなくるバスの接続強化	水俣市 バス事業者 鉄道事業者		協議・実施			

〈事業内容及びスケジュール・実施主体〉

事業6 市民及び来訪者にとって分かりやすい情報発信

事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○免許返納後に公共交通機関を利用できず、外出できない方が存在しています。 ○バス案内所にてインフォメーション等を行い、市民が利点を感じる場所になればとの要望があがっています。
取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが市内の公共交通情報や観光情報を手軽に入手でき、自家用車を利用せずとも、新幹線やみなくなるバスを組み合わせる自由な公共交通で移動できる環境整備を行う取組みを進めます。

取組み内容

取組み①：水俣MaaS（ミナマース）事業の取組み推進

- 現在水俣MaaSプロジェクトの一環として、移動検索アプリの「my route」が利用できます。今後は市民のみならず来訪者に対しても「my route」の活用促進を積極的に行い、市内公共交通や市内のお出かけ情報を手軽に手に入れられる環境整備の取組みを進めます。



図 my route

取組み②：交通拠点での公共交通の情報発信

- 市内の主要拠点である新水俣駅、水俣駅、水俣市役所における情報発信を強化するため、乗り継ぎに関する情報発信や待合環境の整備を行い、市民や来訪者が公共交通の情報を手軽に入手できる環境を整備していきます。



屋内にベンチを設置

図 平野交差点バス待合所の事例

出典：山中湖観光協会



イベントや施設パンフレットを設置

図 朝日町観光案内所の事例

出典：山形県

取組み内容	実施主体	事業スケジュール				
		R7	R8	R9	R10	R11
①水俣MaaS（ミナマース）事業の取組み推進	水俣MaaSプロジェクト 実行委員会 （水俣市含む） 交通事業者 観光・商工業者等					
		協議・実施				
②交通拠点での公共交通の情報発信	水俣市 交通事業者					
		協議・実施				

目標4：市民・事業者・行政との連携強化による持続可能な公共交通

- 市内の商業・医療・観光等の施設事業者や水俣市社会福祉協議会等の他分野の関係者団体、各交通事業者、行政などの多様な関係者、そして市民と連携し、様々な媒体を活用した公共交通サービスの情報発信やお出かけ先でのイベントを含めた利用促進に取組み、市民の外出促進を目指します。

目標指標 (KPI)

▶目標値⑤ - 関係者等と連携した利用促進事業の取組み数

- 市内の公共交通を確保・維持するためには、市民や市内の交通事業者、施設関係者等の多様な地域関係者と共に連携・協力しながら利用促進事業に取り組む必要があります。
- 公共交通を使った外出を市民に促すために、市内の買い物施設と連携したお出かけ企画や病院と連携した通院での公共交通利用などの取組みを行います。

指標	単位	現状値 (R6)		目標値 (R11)
関係者等と連携した利用促進事業の取組み数	件	1		5以上 ※

※1年間1件を目標に利用促進事業に取り組むことを目標とし、目標値を累計5件以上(R7~R11)と設定

▶目標値⑥ - 公共交通利用のきっかけを促す啓発活動の実施回数

- 公共交通を利用するきっかけを創出し利用者増加を図るため、公共交通の情報発信等の啓発活動を積極的に行います。

指標	単位	現状値 (R6)		目標値 (R11)
公共交通利用のきっかけを促す啓発活動の実施回数	件	0		25 ※

※公共交通に関する情報発信等(広報誌や水俣MaaS等)を年5件程度実施することを目標とし、累計25件(R7~R11)と設定

事業7：市内関係者と連携した公共交通の連携促進事業の展開

- 取組み①：主要な施設での公共交通の情報発信
- 取組み②：みなくるバスを使った乗り方教室の実施
- 取組み③：交通事業者の人材確保に対する支援

事業8：市民と連携した公共交通の利用促進事業の展開

- 取組み①：公共交通の利用促進キャンペーンの実施検討
- 取組み②：水俣高校の学生と連携した公共交通の情報発信企画

〈事業内容及びスケジュール・実施主体〉

事業7 市内関係者と連携した公共交通の連携促進事業の展開

事業の課題	○市民の多くは自家用車に依存しており、公共交通を利用する機会が少ないです。 ○高齢者の多くは市内の買い物施設や医療施設を利用するため、公共交通の利用者増加に向けて、市内の施設関係者との連携・協力が重要となります。
取組みの方向性	○買い物・通院などで公共交通を利用するきっかけを積極的に提供し、多くの市民に公共交通を利用する機会を創出・推進します。

取組み内容

取組み①：主要な施設での公共交通の情報発信

■市内の主要な買い物施設や医療施設等と連携し、公共交通の時刻表・路線図等を掲示し、市民が様々な場所で公共交通の情報を入手でき、公共交通を利用しやすい環境整備に取り組んでいきます。



図 デジタルサイネージ (北九州医療センター)

取組み②：みなくるバスを使った乗り方教室の実施

■公共交通の利用促進には、市民に対して利用目的を明確に提示することが重要です。実際の利用を想定し、買い物や通院を目的とした「乗り方教室」などを実施することで、市民に公共交通を利用するきっかけを提供する取組みを進めます。



図 お出かけ支援の様子① (水俣市社会福祉協議会)



図 お出かけ支援の様子② (水俣市社会福祉協議会)

取組み③：交通事業者の人材確保に対する支援

■公共交通利用者の減少に加え、運転手の高齢化や人材不足が公共交通の確保・維持に大きな影響を与えています。また、2024年問題により減便が進行する中で公共交通を確保・維持するには人材の確保が重要です。
■交通事業者の人材確保のための取組みを支援します。



図 運転手の求職喚起 出典：京都市

取組み内容	実施主体	事業スケジュール				
		R6	R7	R8	R9	R11
①主要な施設での公共交通の情報発信	水俣市 交通事業者		協議・実施			
②みなくるバスを使った乗り方教室の実施	水俣市 バス事業者		協議・実施			
③交通事業者の人材確保に対する支援	水俣市 交通事業者		協議・実施			

事業8 市民と連携した公共交通の利用促進事業の展開

事業の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の公共交通の利用割合は比較的多いですが、その他の世代の公共交通の利用割合は低い状況です。 ○みなるバスの利用割合は14.9%、乗合タクシーは0.4%となっています。
取組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○買い物・通院などで公共交通を利用するきっかけを積極的に提供し、多くの市民に公共交通を利用する機会を創出・推進します。

取組み内容

取組み①：公共交通の利用促進キャンペーンの実施検討

- 公共交通の利用は主に運転免許を所有していない学生や高齢者の利用が多く、自家用車を自ら運転している生産年齢人口世代の公共交通利用は非常に少ないです。
- 日常的に自家用車等を利用している方が定期的に自家用車から公共交通に転換することで、公共交通は将来に渡って確保・維持される可能性が向上し、逆に利用が少ないと公共交通は減便等のサービス縮小となります。
- 免許返納を迎える高齢者や、将来子どもたちが大人になった際に安心して公共交通を利用できる環境を維持するため、公共交通の利用促進キャンペーンの実施を検討します。本キャンペーンでは、日常的に公共交通を利用していない市民に対し、公共交通を「意識する」きっかけを創出し、利用を促進することを目的とします。



図 チラシ 出典：熊本市HP

取組み②：水俣高校の学生と連携した公共交通の情報発信企画

- 運転免許を保有していない高校生にとって、公共交通は重要な移動手段であるにもかかわらず、その利用状況は依然として低い水準にとどまっています。
- 多くの高校生に公共交通を積極的に利用してもらうことを目的に、高校生らと連携して「my route※」内での特集記事を作成する情報発信企画に取組みます。

※移動手段を一括検索・予約・決済できるスマートフォン向けアプリ

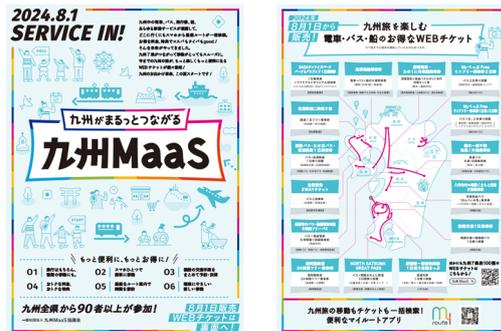


図 チラシ (九州MaaS)

取組み内容	実施主体	事業スケジュール				
		R7	R8	R9	R10	R11
①公共交通の利用促進 キャンペーンの実施検討	水俣市 交通事業者 市民		協議		実施	
②水俣高校の学生と連携した 公共交通の情報発信企画	水俣MaaSプロジェクト 実行委員会 (水俣市含む) 水俣高校	協議		実施		

2 実施事業の体系

- 本計画に定めた目標を達成するために行う8つの事業を定め、本市の持続可能な公共交通サービスの持続・活性化に向けて取組みを進めていきます。

表 実施事業の体系

実施事業	実施主体
目標1 誰もが利用しやすい地域間幹線交通の確保・維持	
【事業1】 広域幹線交通の利用促進 ①鉄道利用者の回復に向けた利用促進 ②肥薩おれんじ鉄道と協力した誘客事業	■水俣市 ■鉄道事業者
【事業2】 地域間幹線交通（路線バス）の確保・維持 ①沿線市町と連携した地域間幹線交通の利用促進	■水俣市 ■バス事業者 ■沿線市町（水俣市以外）
目標2 市民ニーズに対応した地域公共交通の効率化	
【事業3】 みなくるバスの維持・効率化 ①利用実態に応じた運行内容の効率化 ②みなくるバスの利用者増加に向けた利用促進	■水俣市 ■バス事業者
【事業4】 乗合タクシーの運行効率化・更なる利便性向上 ①乗合タクシーの確保・維持に向けた運行内容の見直し ②オンデマンド運行の導入	■水俣市 ■タクシー事業者
目標3 交通拠点の整備・機能強化	
【事業5】 交通拠点での乗り継ぎ強化 ①水俣市役所への路線バスのバス停の移設検討 ②水俣駅での二次交通の充実 ③肥薩おれんじ鉄道とみなくるバスの接続強化	■水俣市 ■バス事業者 ■鉄道事業者 ■カーシェア事業者
【事業6】 市民及び来訪者にとって分かりやすい情報発信 ①水俣MaaS（ミナマース）事業の取組み推進 ②交通拠点での公共交通の情報発信	■水俣市 ■水俣MaaSプロジェクト 実行委員会 （水俣市含む） ■交通事業者 ■観光・商工業者等
目標4 市民・事業者・行政との連携強化による持続可能な公共交通	
【事業7】 市内関係者と連携した公共交通の連携促進事業の展開 ①主要な施設での公共交通の情報発信 ②みなくるバスを使った乗り方教室の実施 ③交通事業者の人材確保に対する支援	■水俣市 ■交通事業者
【事業8】 市民と連携した公共交通の利用促進事業の展開 ①公共交通の利用促進キャンペーンの実施検討 ②水俣高校の学生と連携した公共交通の情報発信企画	■水俣市 ■交通事業者 ■市民 ■水俣MaaSプロジェクト 実行委員会 （水俣市含む） ■水俣高校